



22 中国 大連大窯湾 第一期建設事業

東北3省の玄関口、大連において
物流システム改善に貢献

承諾額／実行額 66億5,500万円／43億800万円
 借款契約調印 1995年1月
 借款契約条件 金利2.6%、返済30年(うち据置10年)、一般アンタイド
 貸付完了 2000年2月
 実施機関 中華人民共和国交通部 URL: <http://www.moc.gov.cn/>



本事業の目的

大連港大窯湾の設備を整備・拡張することにより、急増する貨物取扱需要に対応するとともに港湾の利便性および安全性の向上を図り、同地域の経済発展に寄与することを目的とする。

本事業実施による効果(有効性・インパクト) **a**

本事業は雑貨バース(埠頭)2基の建設および荷役機械の供与を実施し、2003年に完成した。大連港の貨物取扱量は年々増加しており、2004年の年間貨物取扱量は約1.65億トン(うち大窯湾は約0.18億トン、(約18%))であった。また、取扱貨物のなかに占めるコンテナ割合の実績(2004年)は84.8%と計画値(61.5%)を上回っている。なお、本事業は、2004年に、コンテナ貨物取扱量が増加基調であることを背景に、本事業で建設された雑貨バースを、コンテナバースに用途変更しており、その後適切に活用されている。

受益者調査(海運業者11社対象)では、港湾使用料や幹線割引料等のサービスについて改善が求められていることが確認されたが、7社より本事業実施前に比して、港湾施設の利便性、安全性、サービスの質が向上したとの意見が寄せられた。大連市における1990年代以降の経済成長率は全国平均を上回っており、大連港の後背地である東北3省(遼寧省、吉林省、黒龍江省)も同様に成長基調にある。本事業において実施された港湾整備が本事業対象地域および周辺地域の経済成長に寄与した役割は大きいと判断される。よって、本事業の実施により概ね計画通りの効果発現がみられ、有効性は高い。

大窯湾における貨物取扱量の推移内訳

	2000年(計画値)		2003年実績(完成)		2004年実績	
	(万トン/年)	(%)	(万トン/年)	(%)	(万トン/年)	(%)
穀物	300	23.1	189.5	13.0	171.3	9.6
鉄鋼	120	9.2	14.8	1.0	16.2	0.9
雑貨	80	6.2	77.9	5.3	82.8	4.7
コンテナ等	800	61.5	1,177.0	80.7	1,507.5	84.8
合計	1,300	100.0	1,459.2	100.0	1,777.8	100.0

本事業実施と国家計画等との整合性(妥当性) **a**

本事業の実施は審査時および事後評価時ともに、国家計画等と合致しており、事業実施の妥当性は極めて高い。事後評価時では、遼寧省および大連市の開発計画において、大連港の機能をさらに拡充するため、本事業の後続事業としてコンテナバース第2期工事の建設が予定されており、本事業の重要性は引き続き認められる。

事業実施の経済性(効率性) **b**

本事業は、事業費についてはほぼ計画通りであったものの、期間が計画を大幅に上回ったため(計画比160%程度)、効率性についての評価は中程度と判断される。事業遅延の要因としては、本事業対象地におけるコンテナターミナル建設、防波堤敷設に伴い設計変更が生じ工事に時間を要したこと等が挙げられる。

今後の展望(持続性) **a**

本事業の維持管理は、大連港集团有限公司の傘下にある大連港散糧会社が担当しているが、能力および維持管理体制とも問題なく、高い持続性が見込まれる。

結論と教訓・提言

以上により、本事業の評価は非常に高いといえる。今後、効率的な港湾事業の運営が図られるために、港湾使用料の低減、税関手続き等の簡素化やEDI化^{*1}を検討することが望まれる。

*1 港湾施設での税関等諸手続きにおいてインターネットを利用した電子申請システムを整備すること。

開発途上国専門家の意見

大窯湾のコンテナ取扱量は伸び悩んでいるが、中国第3の保税港^{*2}に認定されており、今後の成長が期待される。最新システムの導入により、業務効率化が図られたが、今後も港湾施設サービス改善が期待される。

*2 保税区と港湾の機能を一本化したもの。

専門家の氏名: Mr. Yushi Mao (学者)
 上海交通大学学士(機械工学)。現在、天則経済研究所取締役。
 専門は経済学、環境経済等。